

第7回 重点方針専門調査会 議事要旨

(開催日時等)

- 1 日時 平成29年4月13日(木) 13:00~15:40
- 2 場所 合同庁舎8号館4階416会議室
- 3 出席者※肩書は開催当時
会長 佐藤 博樹 中央大学大学院戦略経営研究科教授
議員・委員 小山内 世喜子 男女共同参画地域みらいねっと代表理事
川島 高之 特定非営利活動法人ファザーリング・ジャパン理事
特定非営利活動法人コヂカラ・ニッポン代表
白河 桃子 少子化ジャーナリスト、作家、相模女子大学客員教授
鈴木 準 株式会社大和総研政策調査部長
高橋 史朗 明星大学特別教授
種部 恭子 医療法人社団藤聖会女性クリニック We 富山院長
堀江 敦子 スリール株式会社代表取締役
室伏 きみ子 お茶の水女子大学学長
横田 響子 株式会社コラボラボ(女性社長.net 企画運営) 代表取締役
渡辺 美代子 国立研究開発法人科学技術振興機構副理事

(議事次第)

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 「女性活躍加速のための重点方針2017」に盛り込むべき重点取組事項について
 - ・あらゆる分野における女性の参画拡大・人材育成②
 - ・女性活躍に資する働き方改革の推進①
 - ・子育て支援基盤の整備
- 3 閉会

(議事概要)

- 「女性活躍加速のための重点方針2017」に盛り込むべき重点取組事項について、「あらゆる分野における女性の参画拡大・人材育成②」、「女性活躍に資する働き方改革の推進①」及び「子育て支援基盤の整備」をテーマに、各府省庁からのヒアリングを行った上で、意見交換を行った。

(委員等からの主な発言)

- 【あらゆる分野における女性の参画拡大・人材育成②、女性活躍に資する働き方改革の推進①】
- ・女活法施行後3年後の見直しにおいて、36協定の締結状況や特別条項の限度時間について公表の検討をしていくべき。
- ・えるぼし認定やくるみんマークの取得状況についてもっと大々的に公表するといいいのではないか。
- ・くるみんマークの取消等を始めとする社会情勢に合わせた法律や制度の修正が大事。

- ・見える化サイト等の拡充も大事だが、その前の周知も非常に重要。そして、拡充に当たっては活用の状況を踏まえたニーズに合わせて行っていくべき。
- ・ESG投資について、多様性が生産性、競争力にプラスになるという点に因果関係があるという点を蓄積していくことが重要。また、間接金融が主流の日本においては、金融仲介機能のベンチマークのようなところにESG要素を取り入れていくことも非常に重要。
- ・女性活躍の推進のためには大学において草の根的に取組を広げていくことが大事。
- ・ESG要素を考慮して調達を行った企業の見える化を検討できないか。
- ・中小企業で働く若い女性への初期キャリアの形成に向けた研修等への支援を国として行ってほしい。
- ・女性特有の病気へのケアを怠った際の社会的損失は極めて大きい。企業における女性の疾病に関する検診の実施業況の見える化が必要。
- ・企業における若手の女性へのライフキャリア教育への支援や大学生に対するキャリア教育を検討していくべき。

【子育て支援基盤の整備】

- ・認可保育園に入れなかった方への補助を充実させる必要がある。また、保育園を増やすといったハード面の措置とともに、保育園の確保を含めた出産前からの子育ての不安の解消のためのソフト面の措置も大事。
- ・病院内において院内保育や病児保育を実施するインセンティブをつけるための検討が必要。